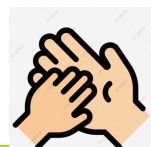


朝日の「宝物」たちのために

朝日地域学校運営協議会だより

令和4年5月 第1号



令和4年5月11日に、朝日中学校を会場として令和4年度第1回目の朝日地域学校運営協議会が開催されました。本会も2年目の船出となりました。

そもそも学校運営協議会とは…「地域の子どもたちにはどんな教育が必要かということや学校・家庭・地域が共に考える場で、地域とともにある学校づくりが進むとともに、より良い学校を作ることがより良い地域づくりにもつながるというねらいをもって行うもの（あさひ小学校の学校だよりから）」です(年3回の開催予定)。



このおたよりは、小中学校全校の保護者の皆様には文書にて、そして朝日地域及び朝日地域に関わる全ての方々の目に届くよう、情報を発信する「ツールの一つ」としてあさひ小・朝日中それぞれのHPに掲載するものです。

さて、今回は主に「各小中学校の学校経営について」「今年度の本会の活動について」協議する場といたしました。以下に議事録を掲載いたします。

なお、今年度の学校運営協議会長及び副会長は、昨年度に引き続き、地域学校協働本部コーディネーターの蛸井由美子様、元社会教育指導員アルゴディア研究所員の安達一春様となりますことを重ねてご報告いたします。また、人権擁護委員の上野薫様、及び朝日中学校PTA顧問の渡部智也様が御退任。新たに人権擁護委員として佐藤雅秀様、朝日中学校PTA会長として小野寺健様の2名を新規会員としてお迎えいたしました。

【協議】

①令和4年度の学校経営について

- ・小中学校それぞれの学校経営方針等が承認されました。

あさひ小学校 学校教育目標: ⑥かるく ⑦わやかで ⑧たむきな子どもの育成

朝日中学校 学校教育目標: 英知 敬愛 創造 Open the way to the future

未来を切り拓くたくましい生徒の育成

②学校経営に関する質疑及び今年度の活動について

<後藤委員>

質問(生徒指導の三機能と学校経営について)に対する資料ありがたい。小中学校へのエールの思いからの質問だった。令和6年度から中高一貫校がスタートするが、学習指導面が重要であると考え。より良い学習環境のため、生徒相互・生徒と教員の人間関係づくり等に生徒指導の三機能(自己決定の場、自己存在感、共感的人間関係の醸成)は大切で、うまく働かせていくことで効率的な学習が可能であると考え。学校生活で大部分を占める授業の場面では自己決定: 自力解決を行うための時間設定 自己存在感: 教材のどこに注目、切り込むか、個別最適な指導、ICT機器利用 共感的人間関係: 児童の協力、間違った考えについても即否定しないなどの手立てが考えられるのではないか。



<山口委員>

豪雪地域ならではの活動ができないか。玄関前の除排雪等。雪から学ぶこと、雪によって成長させられることがある。

<渡部委員>

玄関前については、朝除雪車によって排雪する。今は企業・ボランティア等お願いしているので、生徒を巻き込んでいくとなると方法について考えなければならない。

<菅原和委員>

現在は、近くの人が近くの人を支えるという形で行っている。生徒の参加となると、方法の検討が必要。年々子どもの数が減少しており、地域ごとの行事ができなくなっている。運営ができず、ある地域では実施しないという所も出てきている。この地域でできることはないか。地区運動会の開催も課題。ある地区では競技ができない所も。子どもたちを取り巻く状況が大きく変わってきている中で、子どもを巻き込みながらどう地域を盛り上げていくべきか。

<土田委員>

子どもたちを見る機会があまりないのが残念。長期休業の地域学習塾でのかかわりを通して、学力をつけさせたい。学校評価アンケートの結果から、例えば読書量に関して親子の認識の違いが見られた。

<蛸井会長(座長)>

学校の運営に対して何ができるか。小学校より出された「学校として地域に何ができるか」という視点があることと同様に、地域が学校に何ができるかを考える場、と感じている。このような場で、例えば雪行事について話題として出すことで新たな試みが生み出される。そうした意味で、「声に出す場」として活用したい。

12月に「だがしや楽校」を実施。参加者、ボランティアの応募も多く、主催高校生を中心に充実した活動となった。

<渡部純委員>

だがしや楽校にはほぼ全学年が来てくれた。学習塾についても、保護者より好評であると聞いている。年何回できるか、学習塾とだがしや楽校を合わせたようなイベント、だがしや楽校を各地区で開催するような考えもある。

<蛸井会長>

大網の学習会を見ると、学習と休憩時間の姿から異年齢間の人間関係づくり(昨年度、本会で共有した本地域の子どもたちの課題、固定化した人間関係)が進むと思われる。

<安達副会長>

地域人材の協力の中で、地域のことを知るだけでなく、地域の方々とのコミュニケーション内での学びが多い。

<高橋委員>

だがしや楽校に参加した。各地区を回り番で回るというアイデアはいい。

<小野寺委員>

地元に残る子どもを地元で支援できる地域に。学力向上についても地域で支援できれば。

<菅原正委員>

生徒数の減少は、様々なつながりの減少になるのでは。ゴミゼロ運動も小中学生が全員参加する体制になれば。中高一貫校の鶴南高の強みは「探究」。学んだことを楽しく生かすことができる場を作ることができれば、中高一貫校にも負けない魅力ある朝日の学校になる。

<佐藤雅委員>

地域が一番のことはいくつあるか。そこに注目すると、子どもたちの関心を地域に引きつけることができるのでは。人的支援、財政的な支援があれば、地域人材の出番もあるのでは。

【ご指導 庄内教育事務所 岸田社会教育主事】

朝日地域の強みは元来備わっている(これまで培ってきた)地域の方々の高い当事者意識、学校と地域の距離感の近さ。口コミ効果(話題を広げる)、横のつながりを大切に、他地域の活動にアンテナを張りつつも、この協議会をカスタマイズし、「朝日化」していくことを大事にしてほしい。この活動は「肥沃な土壌づくり」である！



以上、議事録を元にお伝えいたしました。なお、この会議はKCTより撮影いただきました。後日紹介があるかと思しますので、そちらもご覧下さい。今後の本会の活動にご理解とご協力、よろしくお願いいたします。

発行:朝日地域学校運営協議会事務局